

# 稚桜 (わかざくら)

～南中校長室より～

平成 27 年度 NO. 10

平成 27 年 12 月 22 日



*Be Proud Of Us*

**4 か月にわたる長い 2 学期の最終日。また、2016 年、1 年の締めくくりの時期です。**

**毎年行われる「生まれ年別の名前調査」(明治安田生命保険)で、男の子は、大翔(ひろと、やまと、はると)女の子は、葵(あおい、めい)が、それぞれ2年連続でトップだったようです。男の子は「翔」や「悠」を使った名前が多く、オリンピックやノーベル賞など、世界で大きく羽ばたく日本人の姿に感銘を受けたからではないでしょうか。女の子は「さくら」や「陽菜(ひな、はるな、はな)」など、「美しさ、優しさ、希望、豊かさ」を求めた、花や草木をイメージした名前が多くあったようです。名前には親の子どもに対する願いが託されています。さて、自分の子どもが「名前」のような育ちをしているでしょうか。そんなことを家族で話し合いながら新たな年、2017 年を迎えようと思います。**

## 第 35 回全国中学生人権作文コンテスト

法務事務次官賞

「いじめを通して」 兵庫県多可町立中町中学校 3 年 吉川亜未 (よしかわあみ)

小学生の頃から中学生になってもある「いじめについてのアンケート」。あの時まではこのアンケートは意味のないものだと思っていた。いつも「いいえ」に丸をつけて回収されるその紙は、私にとってただの紙切れだった。でも、私が小学五年生になった時、そのただの紙切れだと思っていたアンケートは、私を救ってくれる唯一の命綱のように思えた。クラス全員から無視された。聞こえるように悪口を言われ、楽しく話している子達は皆私の悪口を言っているのだと思った。言われたことをしなければ暴力を振るうと脅された。全く関係のない責任を押し付けられた。いじめられていた頃はクラスメイト全員が敵に見えた。クラスに入る瞬間のあの冷たい空気と視線は今でも鮮明に思い出せる。誰も口を利いてくれない訳でもなく、ニュースやドラマの様なひどいものでもなかったが、まだ小学生の私にとってとても辛いものだった。そして原因も分からないままずっと耐えていた。そんなある日の「いじめについてのアンケート」。今まで全く必要だと思っていなかったその紙切れの「はい」に初めて丸をつけ、私をいじめていた子達に見つからないように提出した。これで全て終わる。すぐに学校が楽しくなる。まだ小学生だった私は単純にそう思っていた。ニュースでたまに見かけるようになった子どもの「いじめ」による自殺。そのニュースを見るたびに私は「自殺を防ぐ方法はなかったのかな」と思う。ニュースではまた男子中学生が命を落としていた。彼は色々なことを一人で抱え、自ら命を絶った。しかし、彼はしっかりと SOS を出していた。生きようと、今の状況から抜け出そうとしていたのに。どうして周りの人達は彼の精一杯の叫びを受け止めてあげることができなかったのか。彼は毎日の日記でそれを訴えていたらしい。救えるのは担任の先生だけだった。先生の行動次第で彼の未来が変わったかもしれない。私の場合、「いじめについてのアンケート」の「はい」に丸をつけたことで、学校に気付いてもらえた。両親にもうちあけることができ、状況は変わっていった。両親が学校に出向いてくれたり、他のクラスの友達が励ましてくれたり、学校中の先生達が私を守ってくれたり。その力を借りることができたお陰で「いじめ」が辛く苦しい思い出から、自分自身が大きく成長したように感じるようになった。例えば、いじめにあったことで相手の気持ちをより深く考えることができるようになった。一度言った言葉はもう取り消すことはできない、そう思いながら相手にかかる言葉の一言一言を大切に伝えようと思えるようになった。しかし、今でも時々「今私の悪口を言っているんじゃないか。」など、急に怖くなることもある。「いじめ」のことを完全に忘れたかと思ってもやはり傷は消えていないのだ。それは私だけでなく今までいじめられたことのある全ての人がそうなのではないかと思う。「いじめ」を乗り越えた時、人は大きく成長すると思う。でも「いじめ」は決して許されない。いじめはなぜ起きてしまうのか。学校という小さな社会の中で自分と反りが合わない人や苦手な人がいるのは当然で、その人とうまく付き合っていくのは本当に難しいと思う。一人ひとり個性があって自分の「普通」が相手

の「変わっている」になっているかもしれない。自分が全て正しいと思い込み考え方の違う相手を批評する。それが「いじめ」につながってくると私は思う。一概に「いじめをなくす」と言ったって簡単にはなくなるものではない。だから今「いじめ」をしている人はもちろん、ただ周りで見ている人やまだ幼い子ども達にも「いじめ」というものの残酷さや醜さを知ってほしい。私一人の小さな力ではどうにもできないけど、まずは一人ひとりがいじめめる人にも、見ているだけの人にもならないこと。そして、一番大切なこと、それはもしもあなたが心ない人達にいじめられたとしても絶対に命だけは捨ててはいけないということ。今の状況が辛いのであれば逃げたらいいい。しかし、自ら命を絶つような逃げ方だけはしてはいけない。「死」が怖くなくなるほど絶望に陥っているかもしれないが、あなたの命が消えたとき、一番深く傷つくのは誰だろう。それは、あなたをいじめた人でも周りで見ていた人でも先生でもなく、あなたの両親である。そのことは決して忘れてはいけない。あなたが一番大切にしている人を、あなたを一番大切に思っている人を傷つけないでほしい。あなたを救う人は必ずどこかにいる。今、私はここにいる。私を救ってくれた人はもちろん、私を成長させてくれたいじめっ子にも少し感謝している。心ない行為で深く傷つけられた世界中のすべての人々の傷が一日でも早く癒えますように。いつかこの世界から「いじめ」がなくなりますように。

### 夢・アート・アカデミー 絹谷幸二先生(12月2日)

奈良県出身の洋画家で文化功労賞を受賞されている絹谷幸二先生にご来校いただいて、ご講演、実技指導をしていただきました。「人それぞれいろいろな生き方がある。1+1=2ではない。絵の下手な人、生き方の下手な人は幸せ。これから伸びる可能性を十分に持っているんだから。あなたはあなたらしく。」とお話されました。その後、生駒山を描くというテーマで実習。全ての生徒が好きに色を塗り始める中で、先生に質問「これって最終的に生駒山になるんですか?」と聞くと「しらん」とのお返事。ただ、「この躍動感がいいんだな」とポツリとおっしゃいました。周りの人たちの言動にばかり気かけ、自分らしさが徐々に失われつつある自分に反省。さて、皆さんは何を感じたのでしょうか?

### 沖縄芸術鑑賞 (12月6日) 「美 ～ちゅら～」

沖縄から20名近くの人たちが、とても美しい衣装と大きな楽器、機材を持って、本校へ公演に来てくださいました。沖縄でもなかなか見ることのできないものです。また、2年生は、衣装をまとい劇団の人たちと共に踊ってくれました。(2年生の成長に感動。来年も南中学校は安泰だ。)最後に劇団の人が「私たちは沖縄の文化を大切にしています。皆さんも皆さんの地域の文化を大切にしてください。それはそこに住む人たちの絆を大切にすることにつながります。」とお話しされました。

### 講演会 腰塚勇人氏(12月20日)

人は人によって支えられて生かされている。誰もが一人じゃない。「助けて」って言っている。命があるのは当たり前じゃない。私はケガからの復帰の中でそれを心から実感しました。「命の授業」の講演を通じて「命の大切さ」や「命の尊さ」を伝えたい。一人ひとりに「今ある幸せ」と「命の可能性」に気づいてほしい。いじめや自殺を減らしたい。そして一人でも多くの人に「命の使い方」や「命が喜ぶ生き方」を考え、行動し、生きてほしい。

- 5つの誓い
- 1 口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう
  - 2 耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう
  - 3 目は、人の良いところを見るために使おう
  - 4 手足は、人を助けるために使おう
  - 5 心は、人の痛みがわかるために使おう

**裏面あり**

### 学校カウンセラーの予定(1月)

岸田カウンセラー 13日(金) 20日(金) 22日(金)

吉村カウンセラー 12日(木) 26日(木)

### 学校評価アンケートにご協力有難うございました

学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。学校として、できること、できないこと、できても時間のかかるもの等ありますが、皆様の貴重な意見を職員一同で論議し、できることから来年度の方針の中に組み込んでいきたいと思っております。「評価点」を1月にお知らせします。また、生徒アンケート、教職員員の「自己評価」の結果もあわせて、「学校関係者評価委員会」で分析してもらう予定です。